



1 <成果指標と実績>

<成果指標と実績>						
成果指標		初期値	R5年 目標値	R3年 実績(評価)	R4年 実績(評価)	R5年 実績(評価)
① 「家庭学習の中心」が「自分で必要と判断した学習」である生徒の割合	1年	39.7%	50%	35.9%(F)	22.1%(F)	21.7%(F)
	2年	28.2%	60%	31.6%(E)	26.1%(F)	20.7%(F)
	3年	76.5%	80%	76.5%(-)	82.0%(A)	72.8%(F)
② 1週間の家庭学習時間の平均	1年	9.7h	12.0h	8.6h(F)	12.4h(A)	11.3h(B)
	2年	11.7h	14.0h	12.7h(C)	11.3h(F)	10.3h(F)
	3年	27.0h	30.0h	27.0h(-)	28.4h(C)	23.8h(F)
③ 自ら進んで授業に取り組む生徒の割合	1年	45.4%	50%	39.7%(F)	35.4%(F)	38.9%(F)
	2年	32.3%	60%	32.9%(E)	40.0%(D)	39.4%(D)
	3年	47.5%	70%	47.5%(-)	60.7%(C)	58.1%(C)
④ 授業内容等に興味があつて学校を選じた生徒の割合		23.0%	R6年 50%	R4年 8.5%(F)	R5年 5.7%(F)	R6年 8.2%(F)

2 <年間の取組報告>

榛原高校は、静岡県の本指定及び文部科学省委託事業「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（グローバル型）」の指定（令和元～3年）を受け、地域と連携した教育活動を通して「地域についての認識を深め、グローバルな視野を併せ持つ生徒の育成」を目標として活動に取り組む「HAFプロジェクト」(Haibara Achieving Futures Project) を推進してきた。プロジェクト開始当初は、希望者が参加する課外活動が多く、目標を広く達成していくために、さまざまな活動を教育課程内に位置付け、組織的・体系的に学校全体の取組としていくことが課題であった。そのため、令和3年度から生徒全員が履修する学校設定教科「地域創造探究」を新設し、年間指導計画や評価方法の検討を行ってきた。3年目となる本年度は、昨年度に引き続き、課外活動を教育課程内に取り込んだ学習プログラムの開発や、活動の振り返りや評価方法の研究を行い一定の成果をあげることができた。

3 <特徴的な取組>

(1) オンリーワン・ハイスクール（グローバル・ハイスクール）事業の推進・運営

HAFプロジェクト推進会議と学校運営協議会において、オンリーワン・ハイスクールにおける取組について協議、評価を行った。学術機関、地元企業、行政関係者等からの指導助言に加え、生徒の研修等の課外活動について協力・支援を受けることで、組織的・体系的指導を行うことができた。

(2) 学校設定教科（科目）のプログラム開発、探究活動の実践及び評価方法についての研究

3年生は、学校設定科目「地域創造探究Ⅲ」を実施し、「自己の生き方・在り方について考えるとともに、地域や世界、社会への貢献の在り方について考えること」を目標として、生徒各自が1、2年次の学習を振り返り、今後の自己の生き方について考え、「My Story For Future」という題でスピーチ原稿を作成した。グループ発表会を行い、生徒による自己評価、相互評価、教員による評価を行った。2年生は、修学旅行の研修地（シンガポール）と自分の興味・関心とを関連させながら、個人でテーマを設定し、探究学習を行った。探究方法の知識・技能を身に付けるための教科用図書の活用、配布プリントの内容等について研究した。1年次、2年次については、これまでの実践を振り返り、引き続き、年間指導計画やルーブリックの見直し、評価方法についての検討を行い、一部修正して実施した。



1年対話研修

2年シンガポール事前研修

3年グループ発表会

台湾オンライン交流

(3) 学校設定教科「地域創造探究」(企業、自治体等との連携)の実施

ア 地域の人材を活用した取組(1年生)

- ・ファシリテーター「CLIP」による対話とグラフィック研修
- ・NPOによる探究ガイダンスとミニ探究活動・牧之原市長講話
- ・行政職員、NPO法人、事業主などによるテーマ別講話



地域企業研修

イングリッシュ・キャンプ

イ 地域企業との連携

(1年生、2年生、2年生発展選択者25人)

1年生：企業訪問希望者1年生18人が、「伊藤園・株式会社ヤマザキ」コースと「TDK・富士山静岡空港」コースに分かれて各企業を訪問した。工場見学、事業内容の説明、企業理念、これからの企業のあり方などについて学んだ。



南九州研修(指宿温泉)

宮崎大宮高校とFW

2年生：シンガポール修学旅行の事前研修として、矢崎シンガポール法人現地スタッフによるシンガポールの気候や文化などに関する研修、現地勤務経験者の方を招いて班別研修に関する相談会を実施した。

発展地域創造探究：矢崎ものづくりセンターを訪問し、工場見学や企業の海外進出等について学んだ。また、海外勤務経験者等を学校に招き、企業のグローバル展開や求められる人材などについて、グループ別研修を行った。夏季休業中には、矢崎総業株式会社Y-CITYを訪問し、YAZAKIのまちづくりへの参画、企業の社会的な存在意義、働く環境づくりや社会貢献活動など具体的な取組に触れることができた。

(4) グローバル研究

グローバルな視野と国際感覚を育成するため、オンラインを活用した英語によるコミュニケーション活動を実施した。発展地域創造探究では、台湾の国立嘉義高級工業職業学校とのオンライン交流を実施した。英語によるプレゼンテーション(学校や地域の紹介)及び質疑応答を行った。グローバル部は、台湾の国立金門高級中学校とのオンライン交流を実施した。少人数に分かれ、学校生活やそれぞれの国の文化について英語スライドをもとに紹介・質問があった。オンライン交流後、クリスマスカードや年賀状の交換を行い、中にはインスタグラムでの交流など、継続的な交流につながった生徒もいる。

その他、特徴的な取組として、南九州研修(海外研修の代替として実施)、地域リーダー育成プロジェクト、イングリッシュ・キャンプ、高大連携等を実施し、多くの生徒が参加した。

4 <成果と課題>

(1) 普通科の魅力向上の実現

生徒及び保護者を対象に実施した学校評価アンケートによると、探究学習等を通して思考力・表現力・協働力を高めることができた生徒83.6%。課題解決型学習の実践により、他者と協働的に学ぶ姿勢や探究心を身に付けることができた生徒87.1%。企業や地域について理解を深め働くことの意味を深めることができた生徒81.3%であった。地域と連携した地域創造探究、グローバル事業を実践していると回答した保護者89.3%。これらの数値から、生徒・保護者ともに本校の探究学習について一定の評価をしていることが分かり、魅力向上につながったと考えられる。

(2) 「目指す学校像」に向けての進捗

探究学習等を活かして進学する生徒の数が、年々増加している状況であることから、探究学習がスクール・ミッションにある「進学希望の実現」に大きく貢献している。

(3) 生徒の資質・向上の成長

地域の外部人材を活用した対話を重視した活動を通して、生徒たちは協議するスキルやコミュニケーション能力を身に付け、また、校内外でのさまざまな学習成果発表会等の経験を重ねることにより、思考力、判断力、表現力を高め、リーダーとしての資質を育成することができた。今後の課題は、そうした生徒の学習活動をいかに継続させ、どのように深い学びに繋げていくかということにある。

(4) 地域に開かれた教育課程の実現

令和3年度から学校設定教科「地域創造探究」を設置することにより、体系的に学習を積み重ね、適切な評価を行うことによって「自ら課題を設定し、他者と協働してより良い解決に向け主体的に判断し、表現する力を身に付ける生徒」の育成に取り組んでいくことを実践して、一定の成果をあげることができた。